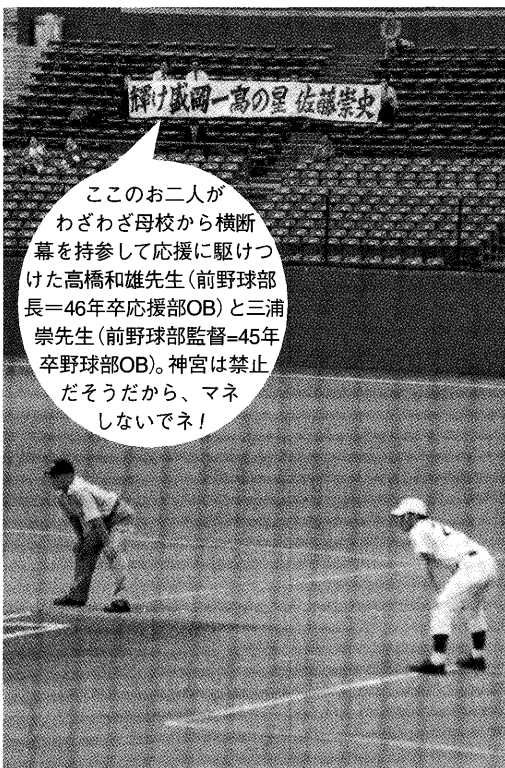


# 在京白聖會報

## 神宮球場に横断幕踊る



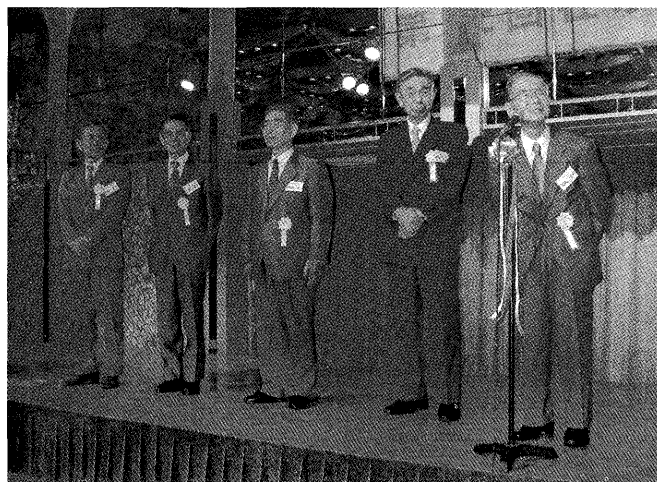
10月7日、神宮球場で行われた東京六大学野球秋季リーグ戦、明大×早大戦で、外野席に「輝け盛岡一高の星佐藤崇史」と大書した横断幕が現れ、人目を引いた。平成10年3月卒で、明大野球部のレギュラーとなった佐藤崇史君のシーズン最後の晴れ姿を応援しようと集まった野球部の仲間やOBたちが掲げたもの。

横断幕は佐藤君の一高時代の野球部部长・高橋和雄先生と監督の三浦崇先生が、わざわざ一高の書道の先生に書いてもらって盛岡から持参したもの。しかし、東京六大学リーグでは個人の応援は禁止ということで、あえなく撤去の憂き目に(以後、真似しないでネ) 関連記事2面に!!

### 第32回 総会報告

### 高橋元昭元校長ら 恩師多数ご列席

「はじめて出席することができて嬉しい」と高橋元昭元校長(写真左)。他の恩師の皆さんも本当に楽しそうでした。



去る5月11日(金)、第32回在京白聖会総会が、ホテルフロラシオン青山にて開催されました。参加者総数は、約230名、平成年次卒業の若手も20名弱参加してくれました。

今年、母校から三田信一校長先生、白聖同窓会から八角正司副会長、さらに今年度の幹事役44年卒の招待で、在校時の先生方である高橋元昭校長先生、岩渕正和先生(数学)、梅津修甫先生(生物)、佐藤晴信先生(国語)、高橋力先生(国語)が参加してくださいました。

高橋元昭先生は、「長生さするのとはテストで90点取るよりも難しい」と90歳という高齢を思わせない、ユーモアたっぷりの挨拶



大先輩の会員もこの日はかりは青春時代に戻って。

で、会場を沸かせてくださいました。アトラクションでは、本会発足の契機となった、昭和43年夏の甲子園出場の際、県予選からベストエイトまで勝ち進んだ足跡をまとめたビデオが放映され、一同感動を新たにしました。

想い出を語り合い、お互いの健勝を喜び合っているうちに時はあっという間に過ぎ、締めは、恒例の、校歌斉唱(放吟?)とエール。それぞれ、我が青春、盛中時代、一高時代に思いを致し、日頃のストレスを解消し、明日への鋭気を養った2時間でした。別れを惜しみつつ、来年の再会を約しての解散となりました。

在京白聖44会

幹事代表 佐々木 裕



恒例の幹事引継式。ごろうさまでした。佐々木裕さん、そして、44年卒幹事のみなさん。

次年度代表幹事の加藤文也さん。次回はもう半年先。よろしくネ、45年卒幹事のみなさん。



今年の総会は昭和44年3月卒業が幹事。この年の野球部の甲子園出場がきっかけとなって在京白聖会が発足した。そこで今回は、平成八年の秋季大会で優勝し、あわや選抜出場！の夢を与えてくれた平成10年3月卒業の野球部メンバー2人に、野球部OBの菊地拓さんがインタビューした。

## 社会人を経て、目標はプロ野球（佐藤崇史）

**菊地** 佐藤君は明大野球部でレギュラーとったけど、これは大変なことだよな。

**佐藤** PLとか甲子園のスーパースターが集まり、最初はカルチャーショック（笑）。1～2年までは絶対、神宮には出られないと思っていました。けれど、3年の夏ごろからある程度の結

果が出はじめ、行けると考えるようになりました。

**菊地** 今年の春には、野球がで

きなくなるような大怪我をしたんだって。

**佐藤** ええ、試合後の守備練習でバックホームをしようとしたら、肘の骨がパーンという音がして骨折です。3年の夏ごろから少し痛かったのを、勝負を賭けていて無理したのがいけなかった。救急車がきて、これで野球ができなくなると思った瞬間涙が出てきました。結局、6月まで棒に振り、7～8月は2軍で調整、9月になってようやく一軍に戻ることができました。

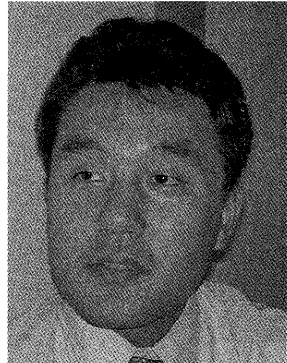
**菊地** 高校と大学では、練習はどのように違いましたか。

佐藤崇史（たかふみ）さん。3番ファースト。左投げ左打ちで強打を誇る。平成10年3月卒。明大政経に進学し、野球部で現在4年生。左のピンチヒッターの切り札としてレギュラーに。社会人野球の七十七銀行（仙台市）入部が決まっている。

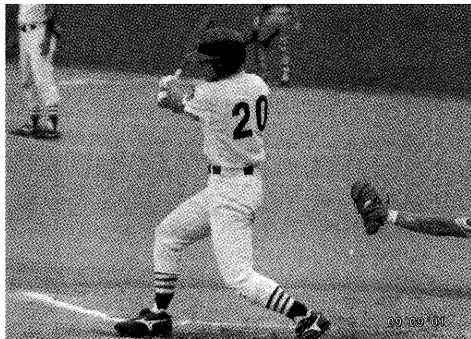


スタンドがだめなら佐藤崇史さんを出口で待ち構え素早く記念写真撮影。

菊地拓（ひろく）さん。野球部。昭和63年3月卒。二〇〇〇年、平河町に税理士菊地拓事務所を開設。税理士会野球などでも活躍中。



**佐藤** 大学は100人の部員がいて試合に出られるのは9人+αだから、練習はみんな遅くまでやります。やらないとすぐレギュラー落ち。僕は野球が大好きで、好きな野球のためだけに24時間



佐藤崇史さんの神宮六大学野球での雄姿

使ってきました。今はプレッシャーを楽しむというか、それがないもの足りない気分です。

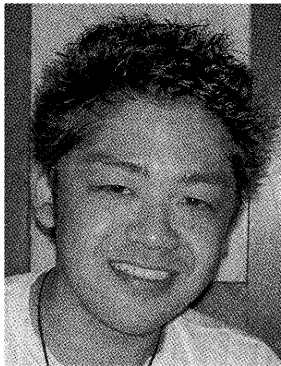
**菊地** 秋季大会の優勝チームはどのようなチームでした。

**吉田** 5点取られたら6点取る打撃のチームで、最後は1点差で勝っていました。1試合ごとに力をつけて強くなっていた感じがします。メンバーもいい選手が揃っていました。甲子園切符を逃したのは悔しいけど、一緒に戦ったメンバーは生涯の財産だと思っています。

**佐藤** 正直、メチャ悔しかった。

**菊地** 卒業後の進路は2人とも決まっていますか。

吉田透（とる）さん。5番キャッチャーで、秋季優勝チームのキャプテン。平成10年3月卒。早大商学部に進学し、野球は同好チームや草野球リーグ戦などで楽しんでいる。現在4年生で、富士フイルムへの入社が決まっている。



**佐藤** 社会人野球で仙台の七十七銀行に入部することになっています。野球で人並みの給料がもらえるようになったら、もう一つ上を目指したいと思っています。その意味では、プロ野球選手が多く伝統のある明治に入ってよかったと思います。

**吉田** 一高で野球ができたから今のほうがあります。この出会いを大切にしていきます。

## 新ホームページ紹介

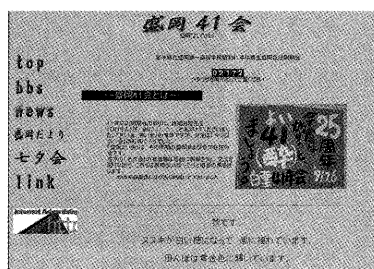
今年の3月以降、新たに立ち上がった白聖会関係のホームページは「盛岡41会」「在京白聖43会」「47東京白聖会」の3つです。

「盛岡41会」は七夕会の盛岡ご本家版といったところ。ここを訪問すると、優雅な盛岡弁で返事がいただけるかもしれませんよ。

「在京白聖43会」は仮住まい、「47東京白聖会」は気合い十分です。その他、漏れがあれば次号でまた紹介します。



在京白聖43会のアドレス  
<http://www5.ocn.ne.jp/sawafuji/hakuadousoukai.html>



もりおかよいかい  
 盛岡41会のアドレス  
<http://members3.tsukaeru.net/yoikai/>

BOOK  
紹介

村上雅人（昭和49年卒）著  
実用期に入った新世紀技術  
**超電導新時代**（工業調査会刊）  
（一九〇〇円税別）

村上雅人氏の『超電導新時代』

は、今年8月、茨城大学工学部の村野井徹夫先輩（昭和35年卒）の在京白聖会ホームページへの投稿で紹介されました。「工学や物理になじみでない人でも気軽に読めそうです」という推薦文につられて読んでみると、なるほど、科学の楽しさ、夢の一端に触れることができました。

最近では児童の理数離れが深刻なようで、中学校の専門教師を小学校に移籍とか派遣する案などが検討されています。

高校時代に理数から落ちこぼれて私立文系を選択した経験から言わせてもらえば、理数離れの最大の原因は、教師が伝える学問のイメージの貧困にあると思っています。『超電導新時代』を読んで、ますますその感を強くしました。

くしました。

白聖の同窓の中には、超電導「超伝導」と記述する場合もあるというの専門家も多いと聞きます。学会等での専門的な評価は分かりませんが、この『超電導新時代』は、超電導に関する啓蒙書としては第一級です。専門書だけでなく、最近ではコンピュータ関係のマニユアルの読みにくさに閉口しています。が、本書は、科学アドベンチャー小説のようにわくわくドキドキと読み進め、気がつけば超電導が身近になっているという感じ。中学や高校生のお子様にプレゼントしてもいいでしょう。理数嫌いが変わるかも。本書で知りましたが、岩手県

の協力で「超電導うきうきわくわくコンテスト」を行い、盛岡一高は高校部門で大賞を受賞。超電導は、岩手県の夢でもあるようです。

村上雅人氏は、他に「なるほど虚数」「なるほど微積分」（共に海鳴社）など数学関係の啓蒙書の著書も多い。インターネットのヤフーのブックシヨッピ

ングで著者名から検索すると全冊紹介されています。在宅で注文できるから便利です。



BOOK  
紹介

山崎益矢（昭和43年卒）著  
啄木・道造の  
**風かほる盛岡**（文芸社刊）  
（一八〇〇円税別）

著者の山崎益矢氏は団塊の世代。高校時代に修学旅行を経験し得なかった空しさの反動から本書を著しました。異郷への憧憬が、上京して帰省もままなら

なくなつて、逆に郷里・盛岡のことを記録しようという思いに転化したといひます。その27年間の成果が本書で、啄木忌にあたる4月13日に刊行されました。

本書をめくると、まず、そのていねいで精力的な資料収集力に圧倒されます。盛岡における啄木の足跡と顕彰碑を網羅し、図版も豊富で、みちのく盛岡の他に類を見ない文学ガイドブックといつてよいでしょう。

その精緻さは盛岡人にとって新鮮で役に立つと国際啄木学会・浦田敬三先生に書評され、

「そんななごのおめさんの本ではじめて知りあふした」との地元からの反響も多くあつたといひます。

たしかに、立原道造が建築家であり「深沢紅子の実家の山荘（生々洞）に逗留して、愛宕山の後ろに続く林檎や葡萄の果樹園の辺りで、実り豊かな秋の美に遭遇、それを包含する大地に感動し、紀行文である『盛岡ノート』や『風立ちぬ論』などを下小路（現、黒川産婦人科医院）にて著した」ということなどは、本書ではじめて知りました。石川啄木と立原道造の接点に注目したことなく、ほとんどの人はないのではないのでしょうか。

本書には、盛岡を故郷とする者でなければ書けない情熱と、盛岡在住では書けないきめ細かさ

が同居しています。異郷への憧憬から望郷の念へのねじれがそんな独特の表現となつて現れたのでしよう。

啄木が好きな人、盛岡を好きな人は必見の書。どこからでも読め、ページをめくる度に新しい盛岡の発見がある、盛岡と啄木を愛するすべての人に おすすめの本です。



47東京白聖会のアドレス  
<http://www5.ocn.ne.jp/~sawafuji/hakuadousoukai.html>

掲示板から

今回、もっとも気になったのは、41年卒の「35年目の東京修学旅行」でした。6月9日〜10日の1泊のバス旅行で、46名が参加。女性の参加も多く、たいへん盛り上がったようです。

「七夕会ホームページ」  
○少年、少女の面影が

懐かしく楽しい会をありがとうございました。35年ぶりにお目にかかる方も多く、女性の出席も多かったのです。18歳の面影をたどりました。皆様、各分野でご活躍で、私を含めここまで年月を思うと、I love you all。（投稿者・渡辺達子 01年6月13日）

○楽しかったね

「修学旅行」楽しかったですよ。東京に住んでいるのに行く機会にのなかったところ。うみはたるやお台場など、ゆつくり見学できてよかったです。（投稿者・高橋利宏 01年6月11日）

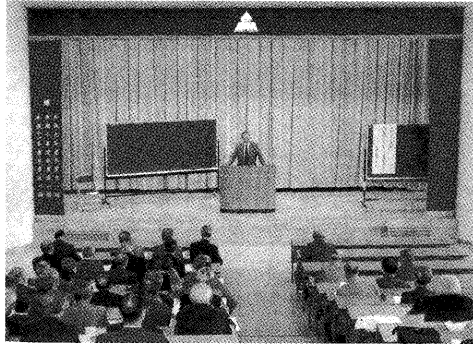


## 寄稿

## 卒業五十年 そして「古稀」

— 記念行事は母校での「再履修」！ —

「盛中では人物考査、身体検査の二点に重点を置き先ず国民学校長の成績内申と志願者の口頭試問の結果を総合して採用する方針であるが、第一に純心であり、正直である生徒を望む。また今日のような時局に際し、中



階段教室で講義をする沼宮内耕作先生

学生として敵国の中学生におくれをとらないような生徒であり（中略）必要なことは中学生として勤労に耐え得る身体を持った者を希望している（後略）」

昭和20年2月17日新岩手日報  
県下中学校入学考査方針と題した抜粋記事である。

かくして合格した330人——その時は、半年以内に敗戦の憂き目に遭うなど夢にも思わなかった昭和20年4月。盛岡中学校の入学式において、時の新田信寛校長は、出席した父兄に対して「皆様のお子さんの命は、校長たるこの私が預かりしました」と挨拶で述べられ、父兄は、この場でも戦況の厳しさを思い知らされた。その校長先生の胸中の痛みもまた如何ばかり



## 宮沢賢治盛中時代の写真

有名な宮沢賢治の写真と比べると、まだ少年のあとけさが残る。「明治45年2月11日卒業生送別記念」の賢治。賢治は大正3年卒だから、まだ在校生で満13歳半ばの頃の写真となる。この写真は、大迫町の近く、稗貫郡亀ヶ森の浄圓寺（真宗大谷派）の現住職、亀山助正氏＝昭和45年卒＝の祖父、亀山敬軌氏＝明治45年卒＝の卒業写真からのもの。「当時の盛中生は、カメラを見ず大志を抱くように中空を脱んで写真に収まったんですね」と亀山助正さん。体格は立派になっても、やはり現代の高校生が小粒になった感否めないということか。

名簿のアンケートにご協力下さい。

締め切りは12月15日（土）

平成14年版の在京白聖会会員名簿を作成しますので、アンケートにご協力下さい。締め切りは12月15日（土）必着でお願いします。名簿はB5版約300ページで、約4,000名の会員を収録。会費を納入されている会員には無料で送付いたします。

であったか。実に深刻な時局の入学式であり、これがまた吾ら白聖二六会同年生の出会いでもあった。それから——

旧制中学・新制高校と在籍6カ年、敗戦後は校舎も設備も荒廃していたが、意外と学舎は自由で明るく、個性溢れていた。しかし授業は、一時は教科書もなく学習不足の時期があった。

そして卒業から50年。古稀を迎え、その記念行事は恩師の特別授業で再履修となった。去る9月22日、記念行事として、一高新校舎で恩師沼宮内耕作先生の特別講義、その後市内ホテルで総会・懇親会。会は百人を越す盛況で、在京二六会からも大挙23人が参加し、在郷組から大歓迎を受けた。絆の強さを改めて知り、再会を楽しみに帰京した。（島川成昭＝昭和26年卒）

## ●甦ったCD「世に謳われし浩然のー」制作について

このCDは、母校の創立百周年を記念して、昭和55年に製作したレコードをCD復刻したものです。CDの由来は、我々盛岡一高昭和43年度応援委員会有志が、母校創立百周年を記念して、後世に残るものと発案し制作したもの。利益が出た場合は母校に記念品を贈ろうということでもとりました。



昭和55年1月27日、レコード会社の技術者が、機材を持って母校に集まり、当時の現役の応援委員と在校生有志が斉唱して校歌、応援歌全曲と愛唱歌の鉄壁白聖城を一日で録音しました。とても寒い日でしたが、現役の応援委員と在校生有志は元氣一杯に大きな声で見事に斉唱し、その素晴らしい寒さを忘れたことを覚えています。

幸いレコードは予想以上に売れ、母校に大太鼓を贈呈することができました。それから20年余、我々も満50歳となり、在京白聖会総会の幹事学年となつて

百周年記念のレコードをCDで復刻することになりました。CD化は予想以上に大変でしたが、CDとなつて目の前に現れたときには本当に感激しました。

このようにして出来上がったCDですが、まだ若干の在庫があります。欲しい方は、同封の注文用葉書か、左記へファクシミリまたはEメールでご注文下さい。値段は1枚1500円です（送料が別途必要）。ご注文いただいた方には、CDと一緒に、送料を含めた金額を記入した振込用紙を郵送しますので、最寄りの郵便局で代金のお支払をお願いします。不明な点は左記へお問い合わせ下さい。

## ■お問い合わせ先

T1070052 東京都港区赤坂2丁目3番2号ランディック第3赤坂ビル7階  
片山・田中法律事務所  
在京白聖44会事務局  
（担当片山卓朗）

Tel 03・5545・6471  
Fax 03・5545・6472

## ■注文先Eメール

ts96@sky.sanet.ne.jp

## あとがき

在京白聖会ホームページへの書き込みが最近少ないようです。もつと気軽に立ち寄って、みんなで盛り上げましょうね。